

NPOと市民をつなぐ

みやしるべ

vol.6

March 2020

特集：座談会『NPOで働くということ』



NPO訪問記



コミュニティ事業支援ネット
P.5



すくすくあいね
P.6



地域生活支援センターれん
P.7



DAREDEMO HERO
P.8



これからだ◎
P.9



認知症予防サポートネット
P.10



兵庫介助犬協会
P.11



訪問看護ステーションネットワーク西宮
P.12

座談会 NPOで働くということ

～若手NPO職員が集まり「仕事」を語る～



座談会参加者のプロフィールと団体紹介

かしもこうすけ

柏本 晃亮さん

大学生時にNPOでのボランティアを経験し、NPO法人コミュニティ事業支援ネット（こみサポ）でのアルバイトを経て、卒業と同時に入社。現在2年目。

しばた だいち

柴田 大地さん

大学生時のインターンシップでNPO法人子ども環境活動支援協会（LEAF）の活動に関わり、アルバイトを経て卒業と同時に入社。現在4年目。

もりた あやか

守田 彩香さん

専門学校で盲導犬、聴導犬、介助犬の育成について学び、卒業と同時にNPO法人兵庫介助犬協会（協会）へ入社。現在3年目。

ふくいくにあき

福井 邦晃さん

大学生時にボランティアとしてNPO法人ブレンヒューマニティー（BH）の活動に関わり、副理事長を2年間務めた。卒業と同時に入社し、現在5年目。

NPO法人 コミュニティ事業支援ネット

「中間支援」「学生支援」「就労支援」の3つの事業を柱に阪神間を中心に産官学民の強固なネットワークを生かし、事業コーディネート、調査研究、地域密着型の事業立案といった先駆的な取り組みを展開。

NPO法人 子ども環境活動支援協会

LEAFは市民・事業者・行政のパートナーシップのもと、持続可能な開発のための教育や環境教育・環境学習、自然体験などの諸活動を通じて、次世代育成やまちづくりに関する諸事業を行うことを目的としています。

NPO法人 兵庫介助犬協会

介助犬の育成、貸与することにより、手や足が不自由な方の自立した生活や社会参加をサポートすることを目的に活動を展開。

NPO法人 ブレンヒューマニティー

1994年、当時の関学生が家庭教師サークルを発足。翌年の阪神・淡路大震災を契機に被災児への学習支援を開始。その後、野外活動や不登校児の支援、中高生のキャリア教育など、その時々々の青少年に合わせた事業を展開。

団体に入社したきっかけ

柏本：最初は、こみサポが指定管理者として運営する西宮市市民交流センターのアルバイトの一人でした。こみサポの先輩が唱えている「NPOで稼ぐ」という言葉に共感できたことや、NPOの相談対応を経験していく中で仕事のやりがいを感じ、入社しました。

柴田：私は元々リハビリテーションを学ぶ大学に

通っていましたが、福祉分野の資格取得ではなく一般就職を考えていましたが、大学でインターンシップに参加するという授業があり、興味を持っていた「子ども」や「自然」というキーワードから、LEAFに出会いました。その後、LEAFから就職の誘いを受けて、「そんな選択肢もあるんだな」と思えてきました。在学中にアルバイトとして働き、LE

A Fで仕事をするイメージが掴めたことから、就職を決めました。

守田：実は、私は小さい頃、犬が怖くて嫌いでした。家の近くの犬に吠えられたことがあって、怖いイメージがありました。小学生の頃、実際にお仕事をしている盲導犬を初めて目にし、イメージが変わりました。人のサポートをしている犬に興味を持ち、その育成・トレーニングが学べる専門学校に入りました。その後、盲導犬よりも認知度が低く、頭数も少ない介助犬の存在を知り、もっと多くの人に介助犬の良さを知って欲しいと思ったことがきっかけで協会へ入りました。

福井：私は、小学生の頃に担任の先生に憧れていました。大学生の時に小学校の教員を目指していて、教員になる前に教育関連の現場を知りたいという思いで、B Hでボランティア活動を始めました。B Hでは、大学生のボランティアが、子ども達に成長のきっかけを与えるプログラムを実施するのですが、その大学生を支える役割の職員がいることを知りました。教育といえば教員という固定観念が良い意味で崩れて、こんな仕事もあるんだと感じたことがB Hに入社したきっかけです。

働く場所がNPO法人と知ったとき

柴田：仕事にすると決めたときは、既にL E A Fに関わっていたので、NPO法人であることは分かっていました。それでも、学生の時は「NPO=ボランティア」というイメージが強く、給与や労働条件はよく知らなかった。理事に「給与ってどうなっているんですか？」と軽い感じで尋ねてみました。その結果、「なるほど。やりたいことを仕事にして、きちんと給与もあるんだ。」と理解できました。

守田：私も「ボランティア」というイメージがありましたが、就職するにあたって色々団体調べたときに、協会の労働条件がホームページにきちんと記載されていたので、しっかりとした団体だなと感じました。

司会：そうですね。NPOでの活動は無償のボランティアなのか、給与がもらえる仕事なのか

を曖昧に情報発信してしまいがちですが、きちんと書かれていることは大切ですね。

福井：B Hでは、学生が理事の過半数以上であることが定款で決まっています。職員の給与は学生理事中心で議論します。私も学生の頃に理事を2年間務めていたので、当時働いていた職員の給与水準を知っていました。ですので、条件面はある程度分かった上で就職しましたし、経営状況が良い年もあればそうでない年があることも理解していました。

柏本：私も学生時にアルバイトとしてこみサポに関わり始めたので、NPO法人であることは知っていました。「きちんと給与がもらえるのか」という点では、アルバイト時にきちんと支払われていたので、不安はありませんでした。ただ、正社員になるときは、「自分の給与は自分で事業を生み出さないとついでこない」という覚悟が必要だと思っていました。現在は、「早く自分で事業を作っていきたい」という気持ちを持っています。

企業で働く友人とはここが違う

司会：一般企業で働いている友人たちと違いを感じることはありますか？

守田：私が通っていた専門学校の友人の半数が、盲導犬や介助犬に関係のない一般企業に就職しました。私は、お金や労働条件よりもやりがい大切に仕事を選んだところが、友人たちと少し違うと思います。

司会：友人からNPOで働いていることを驚かれたりはしないですか？

守田：元々、補助犬の関係団体はNPO法人が多いので、あまり驚かれませんが、私は、自分のやりたいことを仕事にできてお給料をもらえることは、ラッキー！くらいに考えています。

福井：B Hの職員は、担当事業ごとに独立していますので、上司から管理されることがほとんどありません。自分の業務が早く終わればあと



は自由、という感じです。大学生と一緒に夜遅くなることもあります。出勤時間を自分で決められることができ、自分の裁量で働くことができるのは、自分に合っていると思います。企業に就職した友人との会話でよく出てくる「同期がさ・・・」という話や新人研修の話等々はBHにはありません。あとは、入社した日から即戦力として仕事を任せられ頑張ろうという気持ちになれたのは、友人とは違うなと感じました。

柏本：私も自分の裁量で決められることが多いです。やりたい仕事で自分の叶えたいクオリティになるまで仕事に打ち込めることがすごく楽しいです。仕事の仕方を自分で工夫して進められる良い環境だと感じています。

友人らと違うなと思うのは、年末の忘年会などで会うと、辞めたいとかノルマがキツイといったネガティブな話が多いのですが、私にはそんなことが無い点です。NPOのほとんどが小さい組織ですから、新人の私でも経営や新規事業について意見を出すことができ主体的に動けることが、ヤル気につながっています。

柴田：私が最初に携わったのは、LEAFが指定管理者として管理運営を行っている西宮市立甲山自然環境センターでの業務でした。今は西宮市貝



類館のイベント企画運営を中心にっており、入館者数を増やしたいと思っています。企業で働く友人と話す機会は少ないですが、たまに愚痴を聞くこともあります。

先輩を見て思うこと

司会：職場の先輩を見て、こんな風に仕事をしたい、こうなりたいと思うことはありますか？一般企業だと、ボーナス稼ぐぞ！とか海外に赴任したい！社長になるぞ！なんていう目標がありますよね。

福井：BHでは、大学生と一緒に夜遅くなることが多いのですが、20年後も今と同じ働き方ができるとは思いません。3年後5年後には先輩職員のレベルを越えていかなければ、という危機感を持っています。私の目標は、青少年

の支援に関わる大学生たちが主体的に活動できるところまで成長させることです。その成長ぶりが私のモチベーションです。元々は大学生が立ち上げた組織なので、究極の形は我々職員がいなくなる



こと。職員がいなくとも、大学生の活動によって、子どもたちの成長や気づきのきっかけを実現できること。そしてそれが社会に認められることが最終目標です。

柏本：まずは大きくリードしている先輩に追いつくことが目標です。ただ、時代は進んでいて、ITは進歩したしNPO法人格が生まれたのもそんなに古くない。そう思うと、試行錯誤しながら次の時代に通用する自分なりの手法を見つけることも目標です。もちろん、もっと給料が欲しいという気持ちもあります。そのために自分の事業をつくれるようになりたいです。

柴田：私は、自分の仕事が西宮市のみんなの暮らしのために繋がっているということをモチベーションに仕事をしていて、これからも地域の方々のための活動だ、と思いながら続けていくことが目標です。

守田：協会に介助犬を貸してほしいと相談に来る人には、何かしら現状を変えたい、介助犬によって何かを頑張ってみようという思いがあります。そのような人は、これまで



悔しい思いをしたり辛い経験があったりすることが多く、先輩達は、そのような人たちに寄り添って話を聞くことが上手です。一方で、希望者がきちんと介助犬を管理できるのか否かを見極める目も必要です。そういうところでも先輩に追いつきたいと思っています。介助犬と一緒に暮らすようになって、「新しいことにチャレンジできた」「本当に介助犬がいてくれて良かった」等といった感謝の言葉がすごく嬉しいです。それが頑張る原動力です。

司会：もしかしたらNPOは、人材育成が上手なのかもしれないですね。皆さんが入社3年～5年目の20代でこれだけしっかりしたことを話せるのは、驚きです。その上、お金だけではない付加価値を全員が分かっていることが、すごいと思います。

今後やってみたいこと

司会：皆さんがこれから団体でやってみたいことはありますか。

福井：BHは、団体の設立から25年が経ちます。

その中でいろんな失敗を繰り返してきましたので、二度と同じ失敗を起こさないぞ、という気持ちでルールをたくさん積み上げてきました。

いわばそれは今までの最低記録の積み重ねです。毎年、大学の新生が入ってきますが、ルールが多いと感じる学生がたくさんいて、そのことが大学生自身の主体性や、やる気を削ぐ原因になっています。そのため今後は、ルールの見直しや改善案を考えることが必要ではないかと考えています。反面、今のルールがなぜできたのかを考えることから学生たちが自由に主体的に取り組めるような改革をしたいと思います。

柏本：今年最も大きかった仕事は、指定管理者選定の提案書類を作成し、来年度以降の計画を立てたことでした。5年先の未来図を描いて、新たな試みを盛り込みました。まずはそれを実現することです。さらに西宮の中間支援に

加えて、他の都市にも足を伸ばして、初めて会うNPOとも繋がってみたいと感じています。例えば10年後には、西宮市を出て他都市での中間支援に取り組みたいです。そのやりたいことを実現するには、一緒にやってく



れる仲間が必要です。それはきっと若い人だと思います。この座談会は「みやしるべ」に掲載されますが、皆さんのように自分のやりたいことをやりたいと思う若い人に、こんな働き方があるんだよ、ということがこの座談会を通じて伝わってほしいと願っています。

司会：そうですね、次の世代にどうやってバトンタッチしていくのが大切ですね。そうしないと継続的な活動はできないかもしれません。

柴田：LEAFは里地里山保全、環境学習支援施設の管理、国際協力等、様々な事業を行っているので、内部でも横のつながりを強くすることが重要です。西宮市で持続可能なより良いまちづくりが出来るよう、市民、事業者、行政と連携していけたらと思っています。



守田：協会をもっと拡充させることが大切です。それ以上に補助犬の育成に関わる団体全ての存在を大きくするには、団体同士の横のつながりが大事だと思います。例えば、他の団体では介助犬を貸与できないのを私の協会でも可能にするとか、訓練ができるようになった、という横の連携です。その他にも、各団体でバラバラになっている認定期間を統一できれば、補助犬を育成する全体環境がより良くなります。



司会：今日は、NPO若手の皆さんの熱い志を聞くことができ、たいへん頼もしく感じました。皆さんの益々のご活躍を願っています。



多様なセクターを繋ぐまちづくり支援ネットワーク



NPO法人 コミュニティ事業支援ネット 理事長 東 朋子

コミュニティ事業支援ネット(こみサポ)は
中間支援・学生支援・就労支援を3つの柱に
自治体や企業、大学、NPO、市民を繋ぐ
様々な事業を展開しています

連絡先

〒662-0854 西宮市櫛塚町 2-20

西宮商工会館本館 3階

TEL : 0798-23-3738

FAX : 0798-23-3748

Mail : info@comisapo.com

HP : http://comisapo.com/

中間支援

こみサポは活動分野を限定せず、NPOや企業、地域団体、ボランティアなど様々なコミュニティの繋ぎ役となり、それらが協働・交流することで新たな価値を生み出すことを支援しています。2015年度には、市民活動の中間支援拠点である西宮市市民交流センターの指定管理者となり、その管理運営を行なっています。

学生支援

地域をフィールドに、学生が社会に必要なチカラを身につける機会を提供しています。

市内の9大学や企業、地域団体などと連携し、学生のキャリア支援やコミュニケーション力をはじめ



とする社会人基礎力を身につける支援を行なっています。2019年度に実施した「わたしのキャリア研究会(わた

たキャリア)」というプロジェクトでは、県内10の参加企業から提示された課題をもとに、約半年間にわたる企業研究を通して、女子大学生のキャリア形成や社会人に必要なスキルの育成を行い、将来、県内企業で活躍できることを推進しています。

就労支援

2002年に有料職業紹介事業の免許を取得し、就労者の支援を行なっています。ときには医師による相談で心身の健康をサポートするといった、相談者のバックグラウンドに寄り添った就労支援や、就労後のカウンセリング、転職相談を通じて、市民の就労を後押ししています。

取材を通して、こみサポが担う課題解決への支援は多様であり、社会の変容とともに発生する社会問題の解決に取り組み続ける姿勢が印象的でした。他組織との協働による新たな価値観を創造し、「NPO法人で稼ぐ」団体の更なる活躍に期待したいです。



(取材担当 : NPO法人 DAREDEMO HERO 川邊)

おとく 「音育」で心と身体を豊かに！



NPO法人すくすくあいね 理事長 青木 好美

2019年に発足した
新しいNPO法人
音楽を通して心と身体で表現する
「音育リトミック」を広げたい

連絡先

〒663-8113 西宮市甲子園口1丁目5番1号

TEL：090-8536-9016

Mail：sukusukuaine@gmail.com

HP：https://www.facebook.com/sukusukuaine

NPO法人すくすくあいねの誕生

すくすくあいねは2019年4月に設立された新しいNPOです。理事長の青木さんは、お子様が1歳の頃からリズムや歌遊びを通して音楽で子育てを支援する活動を行っておられ、活動から10年を迎えたのを機にNPO法人すくすくあいねを立ち上げられました。現在運営委員11名、ママ会員約70名で活動されています。

NPOとしての活動

活動の一番は音を通して、子どもの育ちをサポートする「音育」を普及させることで、NPO主催の活動のほか学校、幼稚園等で教育プログラムの一環として公演を行ったり、行政、民間企業の委託を受けて事業を行っています。音楽を通して心と身体で表現する「音育リトミック」を広めて行きたいと考えておられます。



音育リトミック見学



4歳児対象の音育リトミックを見学させていただきました。会場まではお母さんに連れられてきますが、レッスン中はお母さんと離れます。はじめ会場では4歳なので元気に走りまわっています。しかしピアノが鳴り出すと、めいめいマットを持ち出し、自分のお家に見立てて、そこに寝転ぶ状態になり静かになります。レッスン

は1か月に1回1時間音楽に合わせて身体を動かしたり、楽器を奏でたり、また絵本を読んで作品を創ったり楽しめます。この「音育リトミック」は1歳児から小学6年生まで年齢に応じたクラスがあるそうです。

歌で楽しむ笑顔会见学

一方シニア世代に向けた「歌で楽しむ笑顔会」を西宮市市民交流センター令和元年度団体連携事業として実施され見学をしました。こちらの対象は60歳以上の方です。このような企画に人が集まるのかなと思いきや、15名の定員に30名以上の予約がありキャンセル待ちの状態とのこと。当日は定員を21名に増やし対応されました。指導は副理事長のボイストレーナーの方が中心になり行われました。口の運動では「ふるさと」を母音を抜き出して歌う、「久しき昔」を「あ〜」で表情をつけて歌う、などが行われました。1時間半の講座が終わったあとは、皆さん明るい顔になって帰られました。



今後の抱負

現在はスマホ、SNSで簡単に音楽を聴くことができる時代。「生の音」にふれ、身体で表現する「音育」を大事にしてゆき、波紋を広げていき、西宮から発信してゆく活動にしていきたいとのこと。

理事長の青木さんは、花博、愛知万博に関わられた経験から、6年後の大阪万博の舞台に子どもたちを上げたいと夢をお持ちです。

(取材担当：NPO法人西宮市マンション管理組合ネットワーク 広尾)

「どこで誰とどんな風に暮らしたい」にこたえる



NPO法人
地域生活支援センターれん
代表 吉村 美幸

しょうがい者の地域での暮らしを支える場
人づくりを目的に 2002 年設立

連絡先
〒663-8245 西宮市津門呉羽町 6-15
TEL：0798-55-6948
Mail：ren@hcc5.bai.ne.jp
HP：https://ren-sou.amebaownd.com

津門小学校の向かいにある事務所で、代表吉村さんにお話を伺いました。

設立経緯

元々、吉村さんは知的障害者の入所施設に勤務されていました。当時から仲間の職員とともに、地域に開いた施設づくりに取り組まれたそうです。利用者さんたちと地元の商店へ買い物に行ったり、近所の散髪屋さんを利用したり、旅行は小グループで行ったりと、しょうがいを持つ人たちが地域でいろんな経験を積む試みをされました。

入所施設にいる人を地域へ出していく取り組みを



施設の中でする人も必要だけど、地域での支援拠点を作りたいという思いから、2002年3月任意団体を立ち上げ、10月にはNPO法人へ。なかなか家を貸してもらえず何件も断ら

れましたが、やっと契約できた一軒家。利用者さんたちと外に出ることで地域に馴染んでいきました。

「暮らす」を支える

外出や緊急時の宿泊支援を通し利用者さんやその家族にとって「住まい」の必要性を痛感。'04年にはグループホーム設立。職員3名から始め、制度が変遷していく中でのこのスピード感に驚きました。しかもホームは思い切って一戸建て分譲。男性4名がそれぞれの個室を自由に使っておられます。貼り

紙をしない、部屋の使い方に口を出さない、ということを中心けているそうです。

'14年には現在の事務所に引っ越し。賃貸二世帯住宅です。部屋数が多いのをフル活用し、女性2名がヘルパー利用しながらシェアハウスのような暮らしを開始。施設や親子暮らしの長いしょうがい者にとって、一人暮らしをイメージするのは大変！ということで'18年には体験ハウスも開始。

利用者さんはのべ50名を越え、その中から4名が自立されました。

未来予想図

「集団が不得意な人たちに暮らす場を提供することで、皆が解放されていく！」利用者さんたちの高齢化や障害の重度化への対応、人材不足など課題は色々あるそうですが、楽しそうな吉村さん。

スタッフの結束力に裏打ちされているのだろうなと思いました。

将来的にはアパートを一棟借りして、部屋も支援も個々に合わせてオーダーメイドで組み立てていくのが夢だそうです。

「苦勞込みのほんまもの暮らし」を支えるために、共に活動してくれる方、大募集中。しょうがいを持つ人が地域で当たり前で暮らすお手伝い、してみませんか？

(取材担当：NPO法人障害者生活支援センター遊び雲 廣田)

この子たちからフィリピンのヒーローを出そう！



NPO法人 DAREDEMO HERO

理事長 内山 順子

フィリピン・セブ島に暮らす
貧困層の子どもたちの勉強を
無償で支援し、成長してからは
母国を格差のない社会へと変革していく
リーダーに育てることを目指すNPO

連絡先

〒663-8004 西宮市下大市東町 6 番 11-302

Mail : info@daredemohero.com

HP : https://daredemohero.com

リゾート地の裏側に

フィリピンのセブ島と聞けば、日本でも超人気のリゾート地。太陽が降り注ぐビーチはどこまでも青く高級ホテルがいくつも立ち並ぶこの地は、まさに別世界です。ですが多くの観光客は、その高級ホテルの裏に貧しい家々がスラム街を作り、子どもたちが日々の食べ物をゴミ山から漁っている、もう一つの現実を知りません。

日当 500 円から 700 円程度で生活する国民が多いフィリピンでは、貧困層の子どもたちが満足な教育を受けることができず、大人になっても就職もできないという負のスパイラルに陥っている世帯がたくさんあります。

『ダレデモ・ヒーロー』とは？

この現実を変えなければ貧困にあえぐ子どもたちの未来は無い、として立ち上がったのがこのNPOです。もちろん、彼らに対し海外から寄付金や学用品



等の物資援助も無いわけではありませんが「それだけでは根本的な解決にならないのです」と事務局の川邊さんは訴えます。「この国の仕組みを変えるには、貧しい家の子供たちに十分な学習の機会を与え優秀な人材に育て、将来はこの国の中枢機関の一員に送り出すこと、成人したその子たちがリーダーとなって貧困から救い出す施策を展開し、格差の無い社会へと国を導くことが必要なのです」。

団体名の『ダレデモ・ヒーロー』とは、この子た

ちの未来の目標なのです。

無償教育と食事提供

このNPOでは、午前中の学校が終わったあと自分たちの「塾」に貧しい子ばかりを集めて、職員が無償で勉強を教えています。学校の宿題には、パソコンを使わないと答えられない課題が平気で出されるのでこの子たちはお手上げになります。ここではそのパソコンも自由に使うことができます。



また学校給食にあずかれない子どもたちのために、ここでは昼食も無料で提供しています。

楽しみな将来

いまやこの塾に通う約6割以上の子が、学校で3位以内の学業成績を挙げています。またトップの成績で大学進学ができる子もいて、将来は医者をめざしている、と聞きました。

このNPOの希望は「この活動をとくに西宮の学生たちがインターンで体験してほしい」こと。「ここでの活動は、違う世界の深刻な現実を実感し教育の大切さを認識して、たとえ短期でも自らの知見を深める貴重なものになる。それは帰国してからの人生の選択にも役立つはず。」と力強く語りました。

日本からほど近い南の国には、全く違う世界が存在しています。取材を終え、そのナマの現実を若い感受性こそが知ってほしいと思いました。

(取材担当：NPO 法人武庫川スポーツクラブ 白石)

地域とともに楽しく暮らす

これからだ◎

代表 関本千代

子どもから高齢者、障がいのある人も
体を動かし運動習慣を身につける
運動教室と、心を豊かにする文化講座を
展開します

連絡先

〒663-8113 西宮市甲子園口町2丁目12-3-303

TEL/FAX：0798-77-7126

Mail：korekarada2016@gmail.com

HP：https://amebio.jp.korekarada2016



人は自分を変えることができる

「人は健康に長生きし、地域と共に楽しく暮らしていくことが幸せだと思うのです。」と代表の関本千代さんは言います。「そのために大切なことは健康と体力づくりです。」対象者に応じて、ダンス・ヨガ・エアロビクス、椅子に座って体操、セルフリンパマッサージなど、子どもから高齢者、障がいのある人が共に生きやすい体と心を手に入れ、豊かな生活をし、人生を楽しく過ごせますようにと願いを込め、「今」「これから」始めることで、人はその「瞬間」から「変わる!」「はじまる!」と関本さんは想いを語られています。

大切なことは、コミュニティの輪を広げ人と人が繋がり、孤立しないこと!

様々なアプローチでの展開



設立当初から、障がいのある人たちへのサポートも積極的に展開しています。事業所に雇用されることが困難な障がいのある人に、就労の機会や活動の機

会の提供等をしている社会福祉法人に在籍している人の体の状態に合わせて、椅子の体操やダンスを職員の方の協力の下、サポートしています。
また、学校に行きづらさを感じている子どもには、家から外へ出したい思いで出向き、一人一体のアートマネキンをイベント会場である甲子園浜まで汗だくになりながらも運んでもらったことがあります。運

んだ後の子ども達の表情がイキイキと輝く姿を見て、この子どもも生きやすい社会を求めていると実感すると同時に、「西宮のこのような子ども達の為の活動を積極的に展開したい!」と関本さん。

運動だけでなく文化講座も展開され、豊かな人生



を送るためには、心に栄養を与えることも必要です。講師を招き、文化・歴史・工作・子どものお花教室等も行っています。2018年には兵庫県政150周年記念事業の助成を受け「講座とまち歩き」も実施。ご縁で繋

がっていくコミュニティの輪の中から新しい元気が出ることを拓けていくことも「これからだ◎」のミッションだそうです。

「障がい者の生涯学習支援活動」への支援

西宮市は昭和48年から40数年もの長い間、知的障がい者の居場所づくり、仲間作りを支援し続け、平成30年には文部科学大臣表彰を受けています。その「青年生活学級」の運動部門を毎年担い、支援活動をしている「これからだ◎」。楽しくワクワクドキドキ生きがいのある全人的健康を目指そうとされている「これからだ◎」の◎(二重丸)には、その決心と熱意を感じずにはられません。

(取材担当：NPO法人こころ・からだ研究所 久保)



NPO法人 認知症予防サポートネット 理事長 福田 章

生活習慣のチェック、
脳を鍛えて認知症予防と健康寿命の延伸を

連絡先

〒662-0865 西宮市神垣町3番20-401号

TEL/FAX : 0798-71-6411

Mail : info1316nysn@waltz.ocn.ne.jp

HP : http://nysn.jp/

「恍惚の人」知っていますか？



48年前の昭和47年(1972年)194万部の大ベストセラー有吉佐和子の小説です。本作は認知症(認知症および老年学)をいち早く扱った文学作品で、これがきっかけで痴呆・高齢者の介護問題にスポットが当てられることになりました。当時、痴呆症と言われていたが、今は認知症と改称され大きな社会問題として広く知られています。その認知症をはじめ、高齢社会で発生する諸問題を広くサポートされているNPO法人認知症予防サポートネットの理事長、福田章さんにお話を伺いました。

認知症は予防できる

医療関係の仕事をしていた福田さん、かねてから老人問題には関心をお持ちでした。平成15年11月兵庫県健康生きがいきづくり協議会入会、健康生きがいきづくりアドバイザーとして認知症予防活動をされ平成22年6月NPO法人認知症予防サポートネットを設立。生活習慣と密接に関係しているといわれる認知症の予防に関する講座や実技を延べ1200回ほど行ってきました。

主宰している劇団ふれんず寸劇による啓発

取材当日は樋ノ口地区「ひのくちのつどい～長寿を祝う会～」で福田さんがオレオレ詐欺犯人に扮し

熱演、手口を披露し大うけの防犯寸劇が上演されました。独居の方や社会とのつながりが少なくなった方はサギの被害に遭っています。悪徳商法による被害が少しでも減るように、西宮防犯協会とタイアップして各地で演じています。

また、頭を使わない生活習慣を続けた元教師が、アルツハイマー型認知症になっていく様子の寸劇も用意されています。

ひとめで分かる素晴らしいマニュアル

フレイル、ロコモティブなど健康に関するキーワードをインターネットで検索すると山のような情報が出てきます。その中から自分に合った情報を選ぶのは大変なことです。そこでお勧めしたいのが講習会でテキストとして使われている一冊「健康寿命を延ばす日常生活の実践マニュアル」(平成29年10月発行 発行人 福田章)。



「このマニュアルは皆様が日常生活で直ぐに生かせる内容にしました、そして地域での集まりなどに活用して頂き健康寿命の延伸に少しでも寄与できることを期待しています。」・・・巻頭のご挨拶より。ご希望の方は福田さんまで。

(取材担当：NPO法人

兵庫県障害者タンデムサイクリング協会 横井)

介助犬を育て、手や足の不自由な方の自立した生活や社会参加をサポート

NPO法人 兵庫介助犬協会
理事長 北澤 光大

手や足が不自由な身体障がい者に対して
介助犬を「無償」で貸与しています。

関西事務所

〒663-0915 西宮市馬場町 4-9

TEL/FAX：0798-37-4649

関東事務所

〒273-0021 船橋市海神 5-27-15-102

TEL/FAX：047-437-6155

Mail：info_hada@ybb.ne.jp

HP：http://hsda.main.jp/



兵庫介助犬協会の活動

2005年3月、兵庫介助犬協会を設立。

2006年12月、兵庫県より特定非営利活動法人兵庫介助犬協会として認証される。

2008年4月、西宮市馬場町に事務所移転。

2016年8月、関東事務所「千葉介助犬協会」を開設。
西宮市と、千葉県船橋市の2か所を拠点に全国で、
介助犬育成と啓発事業を展開。

現在は、スタッフ8名、訓練犬8頭、PR犬5頭
パピーウォーカー委託犬7頭、登録ボランティア約
300名（西宮と船橋合計）で活動しています。



お仕事中
ビブスをつけているときは



ビブスを付けていないときは
あそんでね

介助犬を知っていますか？

介助犬は、盲導犬や聴導犬などと同じく補助犬の仲間です。現在、日本中で盲導犬941頭、介助犬65頭、聴導犬68頭が活躍中です。

兵庫介助犬協会では、介助犬の育成を手掛けています。介助犬のお仕事は、落としたり物を拾って渡す、遠くにある物をくわえて持ってくる、服を脱いだり着たりするときの補助、立ったり歩いたりするときを支える、扉の開閉、スイッチの操作などなどです。

介助犬の訓練は、1年から1年半程度かかります。

ユーザーにより仕事内容が変わるので、訓練にかかる期間が違ってきます。訓練をした犬の中でも介助犬になれるのは、30%程度。それ以外は、協会のPR犬や、一般の家庭でペットとして生活することになります。協会では、その子たちを引き受けてくださる家庭も募集しています。

介助犬育成事業にご支援、ご寄付を

兵庫介助犬協会では介助犬を無償で貸与しています。当会では兵庫県に限らず他の都道府県にお住いの方からのご依頼にも対応できるようつとめています。

介助犬訓練にかかる費用は1頭につき400~800万円程度。行政からは150万~200万円のサポートを受け取ることが出来ますが、介助犬を育てるには足りません。

つまり、介助犬育成事業の多くは、皆様からのご寄付や募金で運営が賄われているのです。ご協力いただける方は、上記関西事務所までご連絡ください。



(取材担当：ふるさとひょうご創生塾阪神マイスターズ 藤原)

在宅療養という言葉に耳にされたことがありますか？



訪問看護ステーション ネットワーク西宮 代表 清船 久美子

想いや願い、生活スタイルを
尊重し「その人らしい」生活を
サポートする

事務局連絡先
〒663-8245 西宮市市津山中町6-32
西宮協立訪問看護センター内
TEL：0798-33-6233
Mail：homon@nk-hospital.or.jp
HP：https://www.facebook.com/miyakkonn/

望む暮らしをわがまちで

訪問看護ステーションネットワーク西宮は、市内にある訪問看護ステーションが集まって訪問看護の質の向上や情報共有を行うことに加えて、市民や他セクターへ訪問看護を知ってもらうことを目的とした組織で、2002年に立ち上がりました。訪問看護では看護師が自宅に訪問し、医師の指示に基づく看護を提供します。ときには自宅で最期を迎えたいという希望に沿った看護や、24時間対応の訪問もあるそうです。

ネットワークの取り組み



2019年11月にはプレラホールにて、第8回訪問看護師と考える看取りシンポジウム「家での看取りを語ろう」が開催されました。

在宅での看取りをされたご家族やケアをされた訪問診療医、訪問看護師の方々が登壇し、それぞれの立場からご経験を語られました。8回目の開催となるこのシンポジウムは、広く市民の皆さんに「最期までどのように自分らしく暮らしたいのか」を考えていただきたいという想いが込められています。

ネットワークでは、にしのみや市民祭りでの活動PRや、ネットワーク内での研修会及び定例連絡会を通じた訪問看護サービスの向上、さらには医療・看護・地域包括ケア等の関連機関と積極的に連携して

広くチームケアの質の向上にも取り組まれています。

時代の要請に応えたサービスを

2025年には団塊の世代と呼ばれる方々全員が75歳以上の後期高齢者となり、4人に1人が75歳という超高齢社会を迎えます。それに伴い、在宅医療の必要性は一層高まります。そんな話題の中、「これからは訪問看護の時代だから頑張らないと！」と頼もしく語られるネットワークの皆さんの熱意を強く感じました。



取材を終えたとき、自然と家族のことが思い出されました。家族に医療や介護が必要となる時はまだ先かもしれないけれども、大切な人の望む暮らしを実現する選択肢のひとつとして、皆さんに知っていただきたい分野だと感じました。



(取材担当：NPO法人コミュニティ事業支援ネット 柏本)

「NPO訪問記」掲載団体を YouTubeでも紹介します



にしのみやインターネットテレビ
(YouTube版)



<https://www.youtube.com/user/nishinomiyaishiTV>

▶再生リスト「～NPOと市民をつなぐ～みやしるべ」

西宮市公式 YouTube チャンネル「にしのみやインターネットテレビ (YouTube版)」では、市政や観光・イベント情報、市長定例記者会見などの動画を配信しています。

この度、新たな試みとして、本誌 (みやしるべ) に掲載しているNPOの紹介動画を公表する運びとなりました。左記コードが再生リストへアクセスすることができます。



■ P6 NPO法人すくすくあいね

NPO法人すくすくあいねが展開する4種の事業について、イベントやコンサートの写真を交えながらスライドショーで紹介しています。



■ P8 NPO法人DAREDEMO HERO

フィリピンでの活動の様子をナレーション付きスライドショーで紹介しています。リゾートのイメージがあるセブ島ですが、その裏側には深刻な貧困問題が・・・。



■ P9 これからだ◎

健康と体力づくりを応援する運動教室と心に栄養を与える文化講座の様子を動画とスライドショーで紹介しています。



■ P10 NPO法人認知症予防サポートネット

同法人「劇団ふれんず」によるサギ事件予防劇を動画で紹介しています。オレオレ詐欺・投資詐欺の手口を楽しみながら知る啓発劇です。



■ P11 NPO法人兵庫介助犬協会

お仕事の介助犬が活躍する様子に加えて、介助犬の成長の様子やボランティアさんの声なども交えた動画です。

みやしるべ 創刊号 (平成27年3月15日発行)

- 啓発事業実行委員会 委員長 挨拶
- NPO訪問記

(掲載団体：6団体)

グラスルーツ／こころ・からだ研究所／ツーリズム西宮楽しく探見隊／
西宮市マンション管理組合ネットワーク／
兵庫県障害者タンドムサイクリング協会
※2020年1月1日までに解散した団体は除く。



みやしるべ 第2号 (平成28年3月1日発行)

- 啓発事業実行委員会 委員長 挨拶
- NPO訪問記

(掲載団体：11団体)

ダイヤモンド・クロス／あんずぼこ／ひょうご新民法21
西宮くぐつ座／兵庫介助犬協会／素人落語我楽多の会／
STEP BY STEP／なごみ／アマモ種子バンク／
兵庫県地球温暖化防止活動推進員西宮支部
※2020年1月1日までに解散した団体は除く



みやしるべ 第3号 (平成29年3月1日発行)

- 特集 NPOって何？学生たちと座談会開催！
- NPO訪問記

(掲載団体：12団体)

こころアートコミュニケーション／サポートステーション Flat／
市民オンブズ西宮／すこやか女性プロジェクト／Namae／
西宮お手玉の会／new-look／阪神つばめ学習会／阪神パソコンネット／
兵庫県不動産コンサルティング協会／みやっこサポート
※2020年1月1日までに解散した団体は除く。



みやしるべ 第4号 (平成30年3月1日発行)

- 特集 \みやたんと対談／「西宮のNPOは楽しいね！」
- NPO訪問記

(掲載団体：8団体)

海浜の自然環境を守る会／支援の会ひまわり／
障害者生活支援センター遊び雲／TOPO／
NiCCL 西宮暮らしやすい地域をめざす会／日越親善協会／
阪神文化財建造物研究会／武庫川スポーツクラブ



みやしるべ 第5号 (平成31年3月1日発行)

- 特集 石井登志郎 西宮市長に聞く「石井市長×NPO＝😊」
- NPO訪問記

(掲載団体：9団体)

アットホームホスピス／AFRIKCLEAN／架け橋／日本心理教育ラボ／
はらっぱ／ペット・フォー・ライフ・ジャパン (PFLJ)／
西宮っ子還暦式運営協議会／西宮フットボールクラブ／
ボランティアグループ「ゆりの会」



■バックナンバー (PDF) は、西宮市のホームページからいつでも閲覧できます。

みやしるべ

検索

■西宮市市民交流センター (西宮市高松町 20-20) では、バックナンバー (紙面) を配架しています。

西宮のNPOが大集合! NPOフェスティバル 2020

入場
無料

2020.3/21(土)
10:00~16:00

場所:西宮市市民交流センター



スペシャルゲスト

カク
GAKU

目の前で起こる奇跡体験!
みんなが楽しめる
イリュージョンショー

色んなNPOに
出会うチャンス!

大人も子ども
みんなが楽しめる!

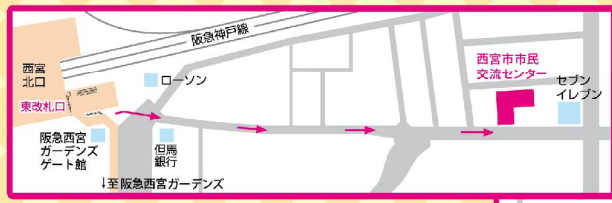
おいしい食べ物で
ひと休み!

スペシャルゲスト

マジックパパ
和田のりあき

親子のふしぎ遊び
コミュニケーション
マジック

西宮市市民交流センターへのアクセス



阪急西宮北口駅から徒歩約3分
阪急西宮北口駅下車→東改札口を出て東側へ
→但馬銀行北側の通りを東に約300m直進



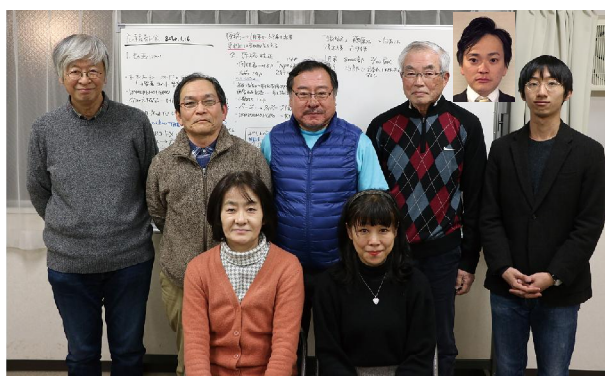
駐車場はございません。
駐輪場はご利用いただけます。
※スペースには限りがあります。



西宮市
市民交流センター
西宮市高松町
20-20



お問合せ：NPO等公益活動市民団体啓発事業実行委員会事務局（西宮市市民交流センター内）
TEL 0798-65-2251 E-mail info@shimin-koryu.net
主催：西宮市、NPO等公益活動市民団体啓発事業実行委員会



編集後記

特集「NPO若手職員による座談会」では、彼らが発する熱い情熱を感じ、忘れかけた「志高く」との言葉を思い出させてくれました。「やりたいことをやりたい」若者が、自らの仕事を選ぶなかでNPOが一つの選択肢となりうること、さらに選ばれるNPO側にもしっかりした理念と運営体制が必要なことを教えてくれた座談会でした。また今回の訪問取材に際して忙しい最中にもかかわらずご協力くださった団体の皆さまに厚くお礼申し上げます。紹介し尽くせないことも多々ありますが、同じ立場の担当者が自らの視点で記すことが『みやしるべ』の特色です。ご理解いただき引き続きのご支援をお願い致します。（白石）

《本誌は、西宮市のNPO等公益活動市民団体啓発事業実行委員会の広報部会メンバーにより作成されました》
NPO 法人ころ・からだ研究所：久保、NPO 法人コミュニティ事業支援ネット：柏本、NPO 法人障害者生活支援センター遊び雲：廣田、
NPO 法人 DAREDEMO HERO：川邊、NPO 法人西宮市マンション管理組合ネットワーク：広尾、NPO 法人兵庫県障害者タンデムサイクリング
協会：横井、ふるさとひょうご創生塾阪神マイスターズ：藤原、NPO 法人武庫川スポーツクラブ：白石（編集責任者）